

第 10 回 APRU マルチハザードサマースクールを開催しました (2025/7/29-8/1)

テーマ：APRU, マルチハザードプログラム

会 場：東北大学災害科学国際研究所

2025 年 7 月 29 日 - 8 月 1 日に、当研究所にて第 10 回 APRU マルチハザードサマースクールが開催されました。中国、台湾、香港、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、アメリカ、イギリス、スウェーデンなど 11 か国から 43 名の大学院生や若手研究者が参加しました。開会式では、東北大学の冨永悌二総長、当研究所の栗山進一所長、APRU 事務局のベンジャミン・チョウさんに開会の挨拶をいただきました。その後、村尾修教授（国際防災戦略研究分野）、江川新一教授（災害医療国際協力学分野）、佐藤大介准教授（歴史文化遺産保全学分野）が講義を行いました。2 日目の 7 月 30 日には泉貴子教授（国際環境防災マネジメント研究分野）が講義を行いました。上記の教員の講義タイトルは以下の通りです。

- 村尾 修 教授
Recovery from the 2011 Great East Japan Earthquake and Challenges for the Future
- 江川 新一 教授
Role of Health Sector in Disaster Risk Reduction
- 佐藤 大介 准教授
Supporting people and communities through the preservation of history and memory: From the “Komonjo rescue”
- 泉 貴子 教授
Overview of the role of stakeholders in Disaster Risk Reduction

加えて、宮城県医療的ケア児等相談支援センター、CWSジャパン、慶応義塾大学、ソフトバンク、インド工科大学ルーキー校からお越しいただいた方々にご講義いただきました。参加者は、インクルーシブ防災、NGOの防災での役割、AI やビッグデータを用いた防災研究や対策などについて学びました。

2日目のグループワークでは、各グループで参加者がそれぞれの研究について紹介し、災害研究がいかに学際的で分野横断的であるかを学びました。また、3日目は AI とビッグデータを活用した災害科学や防災対策について外部講師の方々からご講演いただき、その後のグループワークでは、地震、洪水、山火事の3つの災害に分かれて合計6つのグループがそれぞれの災害に対して AI やビッグデータを活用すると何ができるのか、その場合の課題は何かについて議論しました。

4 日目の巡検では、女川町の震災遺構、シーパルピア女川、女川駅や石巻市震災遺構大川小学校・大川震災伝承館を訪問しました。泉教授とゲルスタ・ユリア准教授（災害メモリー学分野）が同行し、道中や訪問先で被害や復興の状況について説明しました。女川町では復興における新しいまちづくりについて説明し、また、大川小学校では犠牲となった小学生の遺族の方からご説明いただき、学校での防災対策や避難訓練の重要性について学びました。

来年もサマースクールは継続して実施されます。これからも様々な国からの参加者に東日本大震災の経験について語り継ぎ、災害研究について議論を継続したいと考えています。



富永総長の開会の挨拶



栗山所長の開会の挨拶



村尾教授の講義



江川教授の講義



佐藤大介准教授の講義



泉教授の講義



全体写真



大川小学校巡検の様子